

2026年4月24日

各位

会社名： ポラリス・ホールディングス株式会社  
代表者名： 代表取締役社長 田口 洋平  
証券コード： 3010（東証スタンダード市場）  
問合せ先： 取締役 兼 最高財務責任者 細野 敏  
TEL： 03-5822-3010

### ホテル運営状況に関するお知らせ（2026年3月度）

当社グループが運営する国内ホテルについて、2026年3月度のホテル運営状況をお知らせいたします。

国内ホテルの宿泊部門において、比較対象ホテル全体及びエリア別の客室稼働率、ADR、RevPAR及びインバウンド比率は、別添の通りとなっております。

また、懸念される中国からの訪日客の動向及び緊迫が続く中東情勢に関する当社ビジネスへの影響につきましてもコメントしております。

- 過去の運営実績については、当社ホームページをご参照ください。

URL: [https://www.polaris-holdings.com/ir\\_performance/](https://www.polaris-holdings.com/ir_performance/)

- 参考

スポンサーであるスターアジアグループに属するスターアジア不動産投資法人が保有し、当社グループが運営するホテルについては、スターアジア不動産投資法人のホームページにおいて、当該ホテルの月次の運営状況が掲載されておりますのでご参照ください。

スターアジア不動産投資法人 URL: <https://starasia-reit.com/ja/ir/index.html>

以上

# 国内ホテルの運営状況 2026年3月

## 1. 国内比較対象ホテルのKPI

対象 <b>65</b> ホテル	単月（3月）				累計（前年4月～当年3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率	2026年	2025年	増減数	増減率
客室稼働率	90.3%	89.0%	+1.3%		90.2%	87.6%	+2.5%	
ADR（円）	13,231	12,560	+671	+5.3%	12,954	11,976	+979	+8.2%
RevPAR（円）	11,944	11,176	+768	+6.9%	11,682	10,496	+1,186	+11.3%
インバウンド比率	49.3%	48.8%	+0.5%		51.7%	47.7%	+4.0%	

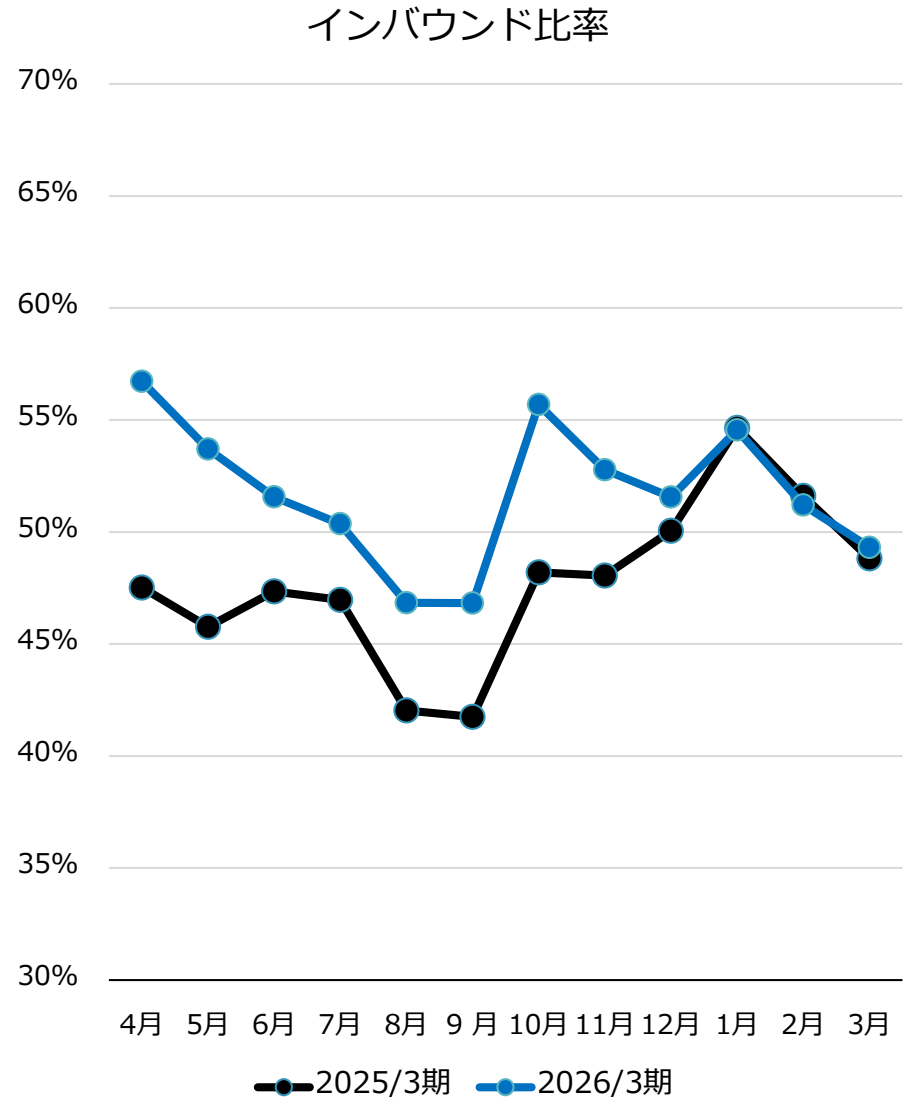
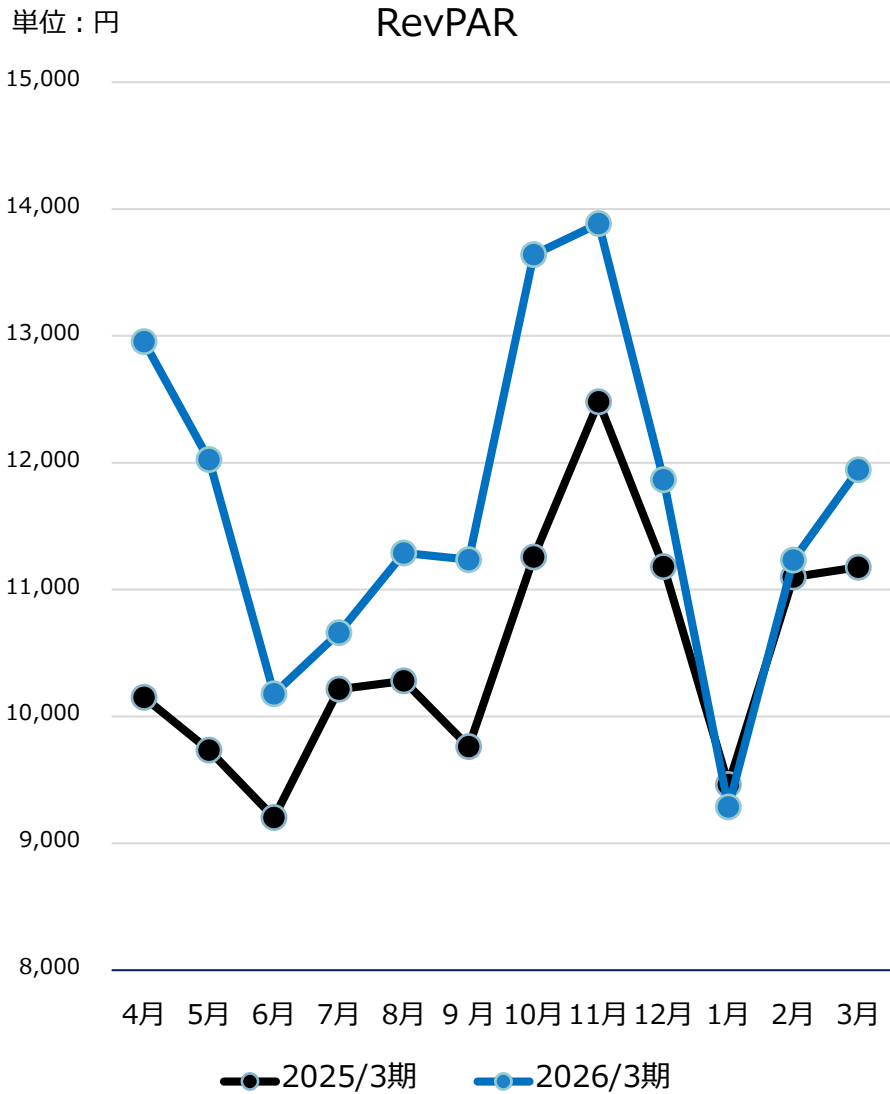
## 2. 運営状況の概況

日本政府観光局公表の訪日外客統計資料によると、3月の外客数は前年同月比 3.5%増の 3,618,900人となり、3月として過去最高を更新しました。

桜のシーズンにあわせた需要に加え、4月のイースターに合わせたスクールホリデーでのインバウンド需要が高まり、外客数は1～3月の累計で2025年同期比 1.4%増の1,068万人となり、2年連続で3カ月で1,000万人を超えました。

このような状況の中、当社グループにおける国内比較対象ホテル全体の3月度RevPARは、前年同月比で 6.9%の増加、インバウンド比率は前年同月に対し横ばいとなりました。近畿を除く全てのエリアのRevPARは前年同月比で増加傾向を維持し、特に北海道、東北・北陸信越及び中部エリアは2桁の伸び率となっております。

# 国内比較対象ホテル / RevPAR・インバウンド比率の推移



### 3. エリア別の運営状況

北海道	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
<b>7ホテル</b>				
客室稼働率	93.6%	88.9%	+4.6%	
ADR（円）	9,586	8,755	+831	+9.5%
RevPAR（円）	8,968	7,785	+1,183	+15.2%
インバウンド比率	29.2%	31.5%	-2.4%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
92.7%	89.6%	+3.1%	
11,449	10,040	+1,408	+14.0%
10,618	9,001	+1,618	+18.0%
35.1%	32.3%	+2.8%	

東北・北陸信越	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
<b>6ホテル</b>				
客室稼働率	90.5%	89.6%	+0.9%	
ADR（円）	9,018	8,068	+951	+11.8%
RevPAR（円）	8,164	7,227	+937	+13.0%
インバウンド比率	24.8%	22.5%	+2.3%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
89.1%	87.2%	+1.9%	
9,293	8,770	+523	+6.0%
8,276	7,645	+631	+8.3%
27.5%	22.8%	+4.7%	

関東	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
<b>18ホテル</b>				
客室稼働率	96.5%	94.6%	+1.9%	
ADR（円）	20,253	19,513	+740	+3.8%
RevPAR（円）	19,538	18,458	+1,080	+5.8%
インバウンド比率	72.9%	69.4%	+3.5%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
95.9%	94.6%	+1.3%	
18,088	17,489	+599	+3.4%
17,355	16,546	+809	+4.9%
72.5%	67.7%	+4.8%	

### 3. エリア別の運営状況 続き

中部 6ホテル	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
客室稼働率	88.7%	85.3%	+3.3%	
ADR（円）	10,822	9,453	+1,369	+14.5%
RevPAR（円）	9,595	8,068	+1,528	+18.9%
インバウンド比率	48.1%	46.7%	+1.4%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
87.5%	80.7%	+6.8%	
10,100	8,967	+1,133	+12.6%
8,842	7,237	+1,605	+22.2%
50.4%	43.2%	+7.3%	

近畿 14ホテル	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
客室稼働率	85.6%	87.6%	-1.9%	
ADR（円）	11,662	11,756	-95	-0.8%
RevPAR（円）	9,984	10,293	-309	-3.0%
インバウンド比率	52.9%	56.4%	-3.5%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
88.6%	86.1%	+2.5%	
12,602	10,738	+1,864	+17.4%
11,164	9,246	+1,918	+20.7%
57.5%	55.5%	+2.0%	

中四国・九州 14ホテル	単月（3月）			
	2026年	2025年	増減数	増減率
客室稼働率	86.5%	86.0%	+0.5%	
ADR（円）	12,029	11,375	+653	+5.7%
RevPAR（円）	10,407	9,780	+627	+6.4%
インバウンド比率	39.9%	39.3%	+0.6%	

累計（前年4月～当年3月）			
2026年	2025年	増減数	増減率
86.0%	84.2%	+1.8%	
11,535	10,800	+736	+6.8%
9,921	9,093	+828	+9.1%
40.9%	37.2%	+3.7%	

## 4. 日中関係及び中東情勢に関する当社ビジネスへの影響

### ■日中関係の影響について

2025年11月15日以降に発せられた中国政府の自国民に対する日本への渡航自粛要請等により、航空便の減便の影響等の影響が続いており、3月の中国からの訪日外客数は前年同月比 55.9%減となりました。

一方、中国以外の国・地域からの宿泊者は増加トレンドを維持しており、中国からの訪日客減少を補う形となっております。

当社グループ運営の国内ホテルにおいては、3月の中国人ゲストの構成比は4%程度と減少傾向にありますが、国内客及び中国以外の海外宿泊客からの予約は堅調に推移しました。

その結果、近畿エリア以外のエリアにおいて、3月のRevPARは前年同月を上回ったことから、現時点において当期の連結業績に与える影響は軽微であると判断しております。

### ■中東情勢の影響について

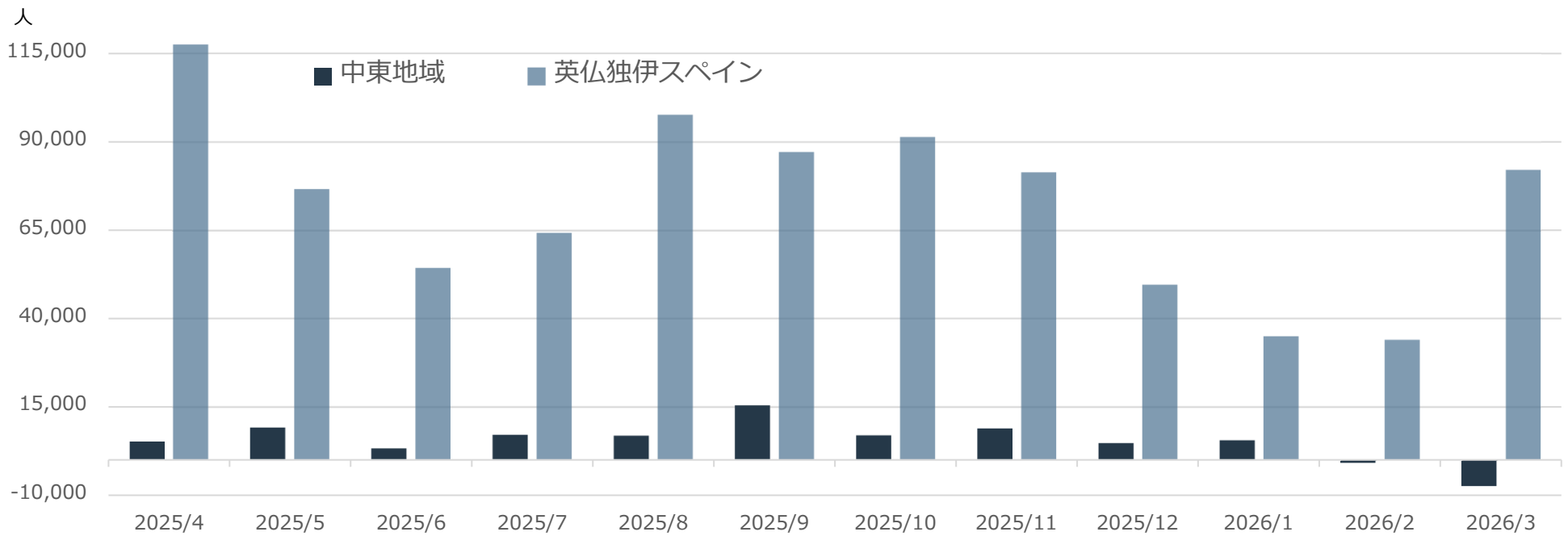
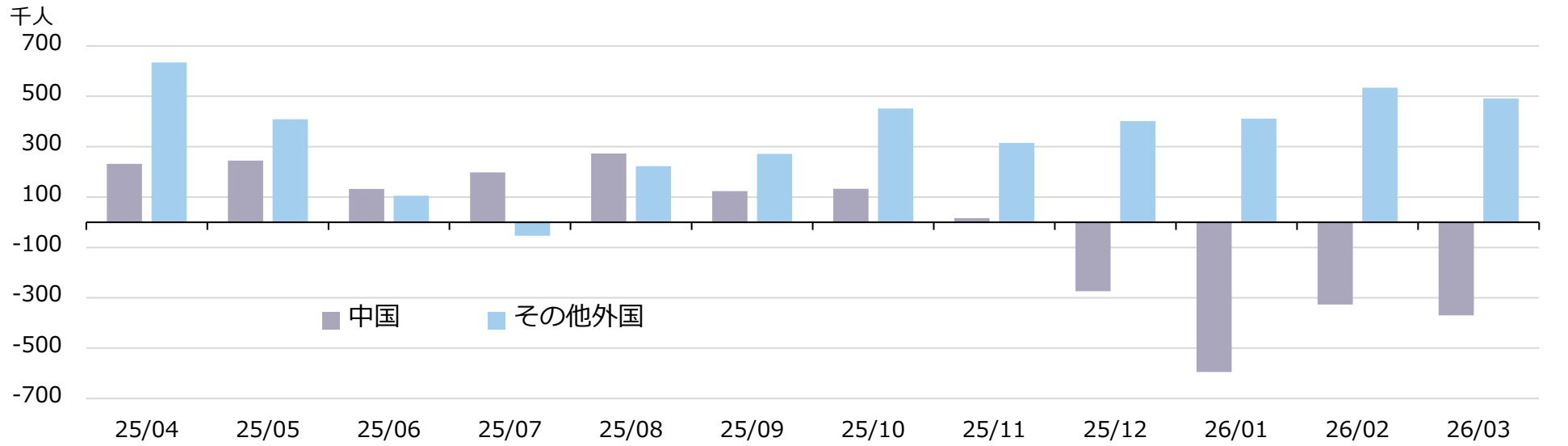
2026年2月28日のイランに対する軍事攻撃に端を発したイラン情勢の緊迫化、原油高等の影響につきましては、中東地域からの3月訪日客数は前年同月比 30.6%減となったものの、減少が懸念されていた欧州からの訪日客数は増加を維持した結果となりました。

当社グループの国内運営ホテルにおいては、中東地域のゲスト構成比は0.7%と極めて低く、中東地域からの訪日客数の減少の影響は軽微となっております。

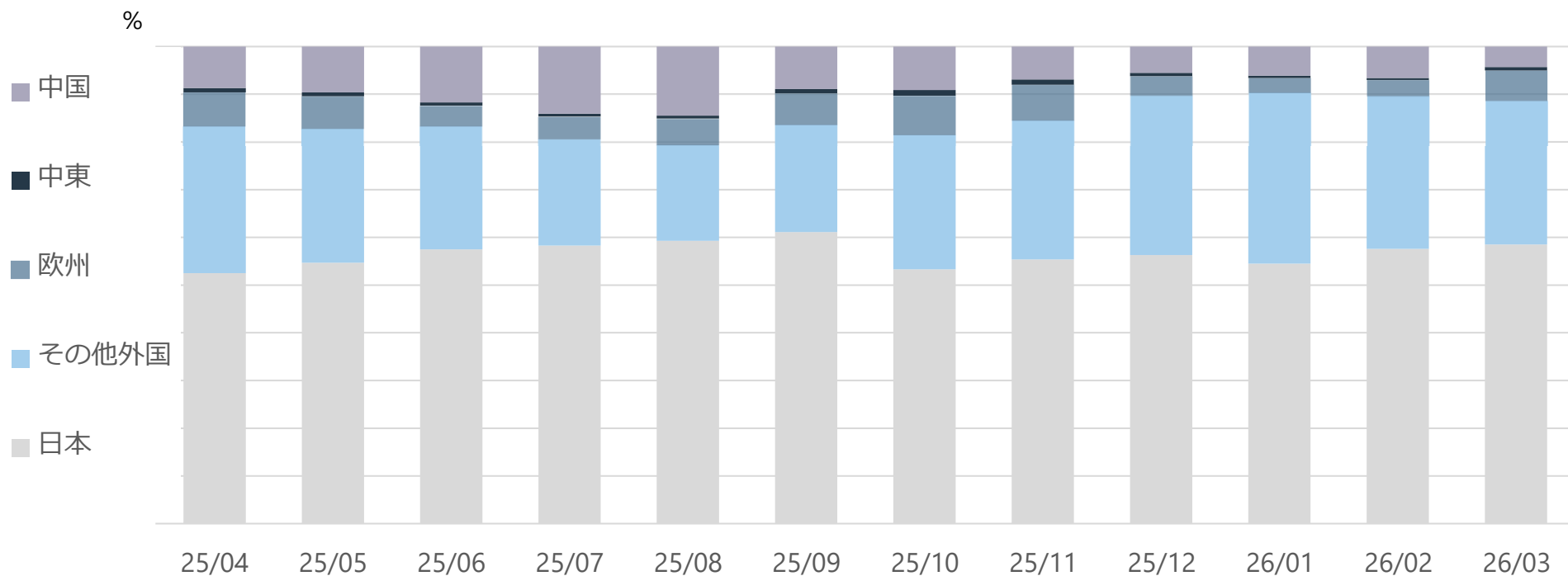
また、欧州地域（ロシア除く）のゲスト構成比も6.4%と高くなく、今後、減少した場合でもその影響は大きくないとみております。

しかしながら、先行きには依然不透明感があることから、宿泊市場及び訪日外客の動向を注視しつつ、多様な国・地域における宿泊客の獲得に努めてまいります。なお、当社グループの事業に重要な事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

# 訪日外客数 前年同月比増減値 (出所) 日本政府観光局「訪日外客数」を基に当社にて作成



## 国内比較対象ホテル／国籍別延販売客室数構成比



	25/04	25/05	25/06	25/07	25/08	25/09	25/10	25/11	25/12	26/01	26/02	26/03
中国	8.7%	9.6%	11.7%	14.1%	14.5%	8.9%	9.1%	6.9%	5.5%	6.1%	6.6%	4.3%
中東	0.9%	0.8%	0.7%	0.6%	0.6%	0.9%	1.2%	1.1%	0.7%	0.5%	0.4%	0.7%
欧州 (ロシア除く)	7.1%	6.8%	4.3%	4.7%	5.5%	6.6%	8.2%	7.5%	4.1%	3.1%	3.4%	6.4%
その他外国	30.8%	28.1%	25.8%	22.3%	20.1%	22.5%	28.2%	29.1%	33.4%	35.8%	32.0%	30.1%
日本	52.5%	54.7%	57.5%	58.3%	59.3%	61.1%	53.3%	55.4%	56.3%	54.5%	57.6%	58.5%



# 注記

- 〔注1〕 2024年4月時点において運営を開始しており、かつ対象期間末日時点で運営を継続しているホテルを集計対象としています。前年度の各数値は、2025年3月期より連結対象となった株式会社ミナシアが運営していたホテルの数値を含みます。また、東日本大震災からの復興支援を目的とした社会貢献ホテルの「バリュー・ザ・ホテル」ブランドの4ホテルは集計対象外としております。
- 〔注2〕 客室稼働率：対象期間の延販売客室数を同期間の延販売可能客室数で除した数値をいいます。
- 〔注3〕 ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、対象期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を含みます。）を同期間の延販売客室数で除した値をいいます。
- 〔注4〕 RevPAR：販売可能客室当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、対象期間の宿泊部門売上高合計を同期間の延販売可能客室数で除した値をいいます。
- 〔注5〕 インバウンド比率：対象期間の延宿泊者数に占める延外国人宿泊者数の比率をいいます。
- 〔注6〕 客室稼働率、ADR、RevPAR及びインバウンド比率については集計対象ホテルの加重平均値です。
- 〔注7〕 客室稼働率およびインバウンド比率については小数点以下第二位を、ADR及びRevPARについては小数点以下第一位を四捨五入して記載しています。
- 〔注8〕 各エリア名の括弧内に当該エリアに含まれる集計対象ホテル数を記載しています。
- 〔注9〕 上記の数値あるいは情報は監査等の手続きを経ていないため、個々の数値あるいは情報の内容の正確性・完全性について保証できるものではなく、今後修正される可能性がありますのでご注意ください。